

地域おこし協力隊

No.23

がゆく



諸沢・北富田地区活性化担当の志賀です。

1月27日(土)に田んぼ88プロジェクトの収穫祭として『お餅つき体験会』を北富田集会所で行いました。1年間のプロジェクトを振り返りながら、約20人の参加者と共につきたてのお餅や手打ちそばを食べて交流を深めました。

田んぼ88プロジェクトでは、昨年3月に行った田起こしに始まり、代掻き、田植え、畦の草刈り、稲刈り、脱穀などたくさんの方の工程を体験しました。その中でも私が一番感動したのが稲の花を見つけた瞬間です。稲の花はわずかな期間、しかも午前中にしか咲きません。生まれて初めて見た稲の花は

白くてかわいらしく、朝露と共に日の光に照らされてきらきらと輝いていて、とても神秘的でした。

お米づくりを通して工程の楽しさや難しさを実感できたことはもちろん、人との輪の広げ方なども学び、周囲の皆様の温かい見守りの下でかけがえのない経験をすることができました。

最後に私事ですが、今年度を持って地域おこし協力隊を退任することになりました。今後は小学校教師として、地域おこし協力隊活動で学んだことを活かし、そして未来を託す子供たちを育てていくために、奮闘したいと思います。

本当にありがとうございました。



いっしょにまちづくり

最終回



茨城大学 人文社会科学部 教授
西野由希子

平成20年10月号から始まった「いっしょにまちづくり」コーナー。今回が最終回になりました。東日本大震災直後の平成22年4月号を除き、一度も休まず、計113回の連載、116の方に登場いただきました。このコーナーを提案し、ずっと携わってきた者として、執筆者の皆さん、読者の皆さん、広報の担当の職員など、コーナーを支えて下さった多くの皆さんに感謝いたします。

常陸大宮市ではたくさんの方々が、それぞれの熱い思いを持って、地域活性化、まちづくりに取り組んでいらっしゃる、その方たちの声を、思いを、笑顔を、届け続けて来ました。「いっしょに」という輪が広がる一助になったでしょうか。

茨城大学の学生たちは市内の各地域に伺って、地域の皆さんと一緒に、一生懸命にまちづくり活動を行う中で学んだことを書いてくれました。本市の職員になった学生、県内外の自治体等の職員や、自分の選んだ道に進んだ学生たち、みんな、学生時代の経験を活かしてくれていると思います。

本コーナーは、市民や学生たちの文章と顔写真などがリレーのように毎回、掲載される点で、自治体の広報誌としては先進的な企画でした。素晴らしい活動をされていて執筆をお願いしたい方が市にはたくさんいらっしゃるのだから、コーナーを続けましょうと広報担当と話しながら、10年になりました。10年間、同じコーナー名で続けられたのは貴重なことですし、90回を越えた平成28年7月号で、見開き2ページを使って特集号を組み、振り返ることができたのも画期的でした。

市には、まだまだ登場していただきたい多くの方がいらっしゃいます。これからも、広報には、新しい試みを行ってそれらの方々を紹介し、活動の後押しをしていただけるようにと願います。

皆さん、ありがとうございました！ これからも「いっしょにまちづくり」を続けていきましょう！